

西尾市地区別防災カルテ

①基本情報

地区No	25
地区名	幡豆小学校

●地区の概況

市南東部の沿岸に位置し、大部分は山地・丘陵地である。谷部には谷底平野が形成され、山裾には段丘や扇状地が分布している。沿岸部は三角州および干拓地・埋立地となっており、漁港等が整備されている。沿岸部の平野と丘陵地の境界部分には砂丘・后背低地がみられるほか、山間部では人工的に改変された箇所が点在する。沿岸部の平野に沿って、東西に名鉄蒲郡線と国道247号が並行して走っている。

●人口の状況 ※令和2年国勢調査より

世帯数	2422 世帯	
65歳未満	4574 人	67.2 %
65歳以上	2211 人	32.5 %
合計	6806 人	

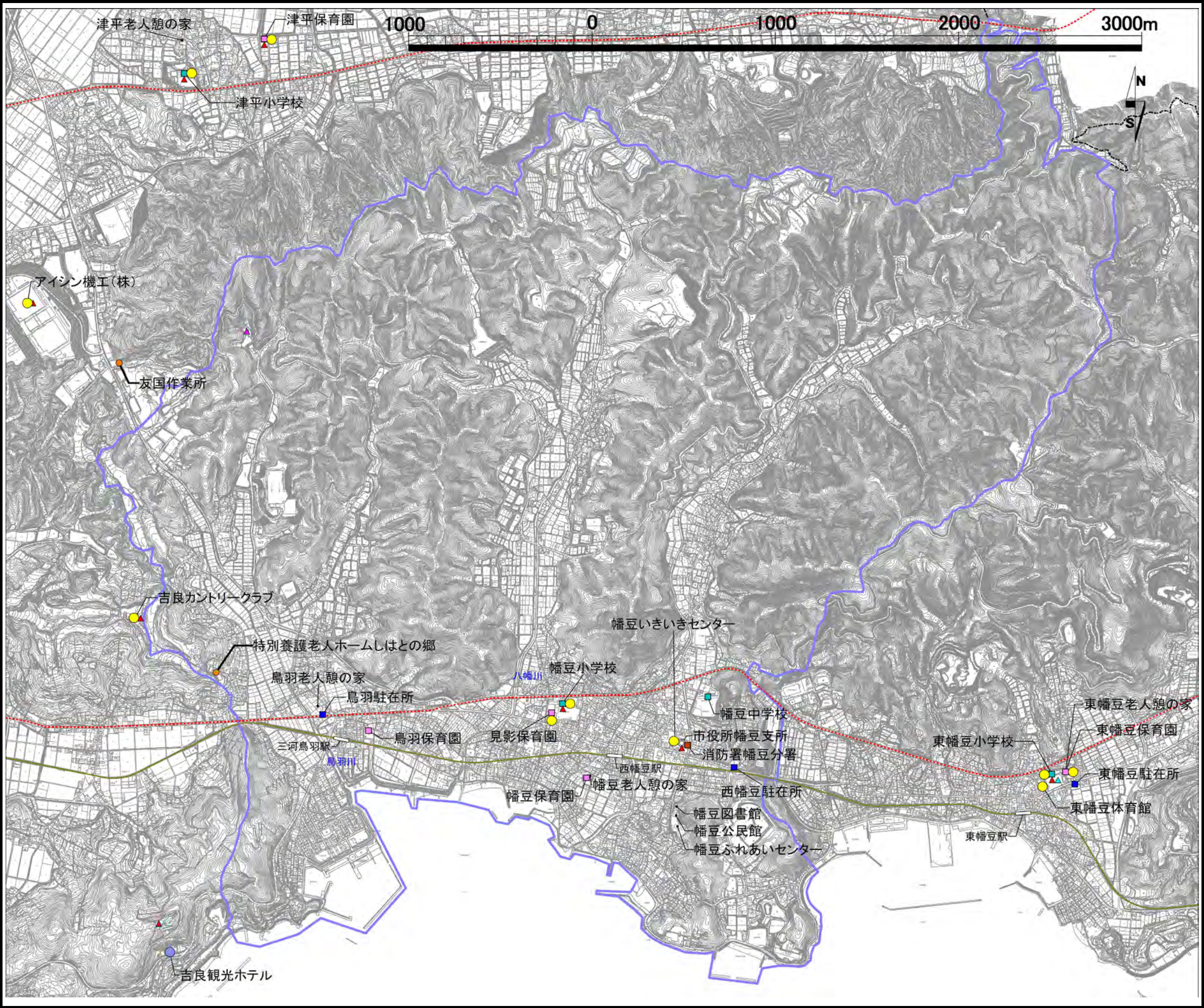
※合計値は年齢不詳の人口も含む

●地区の課題

洪水時は、鳥羽川、八幡川周辺の平野部が浸水するおそれがある。また、丘陵地が多く、各種土砂災害の危険性が高い。
地震時は、建物倒壊の危険性が高く、住宅密集地では延焼火災が発生するおそれがある。
津波、高潮発生時には、主に海岸部が浸水する。
漁港があることから、災害が発生した場合、漁業への被害が懸念される。

●凡例

● 指定緊急避難場所	■ 学校
● 指定避難所	■ 幼稚園・保育園等
● 津波一時待避所	▲ 防災倉庫・防災資機材庫・ その他備蓄倉庫等
● 福祉避難所	▲ 水防倉庫
◎ 市役所・支所等	▲ 飲料水兼用耐震性貯水槽
■ 警察署等	▲ 防災活動拠点
■ 消防署等	▲ 衛生施設
■ 救急病院	● その他の施設
◆ 水位観測所	
◆ 雨量観測所	
— 小学校区界	- - - 市町村界
— 鉄道	- - - 緊急輸送道路



西尾市地区別防災カルテ

②洪水被害・土砂災害

地区No	25
地区名	幡豆小学校

●地区別大雨等被害の特性

地区内を流れる鳥羽川、八幡川沿いを中心に浸水想定区域が広がる。
丘陵地では各種土砂災害が発生する危険性があり、道路が寸断されるおそれがあり、救助や物資の輸送等に支障を及ぼすおそれがある。

●避難環境評価

避難所収容者数	5304 人
避難者数	5814 人
最長避難距離	約 4.5 km

※避難所収容者数は洪水時のみの人数

●最大浸水深

対象全河川(重ね合せ)	5m以上10m未満
矢作川	範囲外
矢作古川・広田川・須美川・安藤川	範囲外
朝鮮川	範囲外
矢崎川	範囲外
北浜川・二の沢川	範囲外
乙川	範囲外
鳥羽川	3m以上5m未満
八幡川	5m以上10m未満

●土砂災害リスク

土砂災害警戒区域(急傾斜地)	90 箇所
土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)	102 箇所
土砂災害警戒区域(土石流)	43 箇所
土砂災害特別警戒区域(土石流)	25 箇所
土砂災害警戒区域(地すべり)	0 箇所

●凡例

指定緊急避難場所・指定避難所(洪水・土砂時使用可)

福祉避難所

市役所・支所等

警察署等

消防署等

救急病院

水位観測所

雨量観測所

学校

幼稚園・保育園等

防災倉庫・防災資機材庫・その他備蓄倉庫等

水防倉庫

飲料水兼用耐震性貯水槽

防災活動拠点

衛生施設

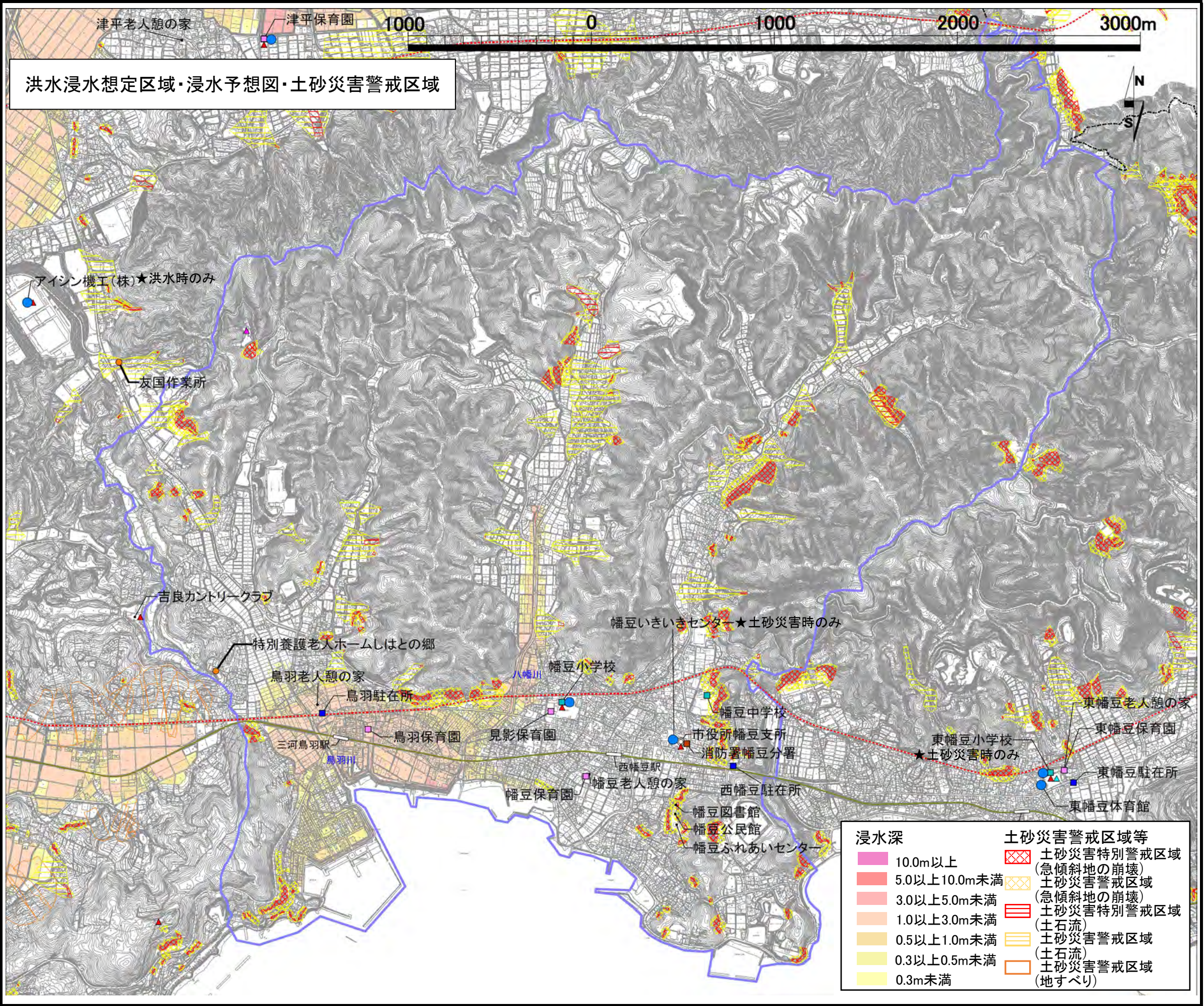
その他の施設

小学校区界

鉄道

市町村界

緊急輸送道路



西尾市地区別防災カルテ

③地震被害

地区No	25
地区名	幡豆小学校

●地区別地震被害の特性

過去地震最大モデルでは、地区南西部の沿岸部で震度7強、その他沿岸部で震度6強、丘陵・山地部では6弱となる。(下図参照)
平野部の一部では液状化の危険度は高いが、丘陵・山地部では極めて低い。
西幡豆駅周辺の住宅密集地では延焼火災の危険性がある。

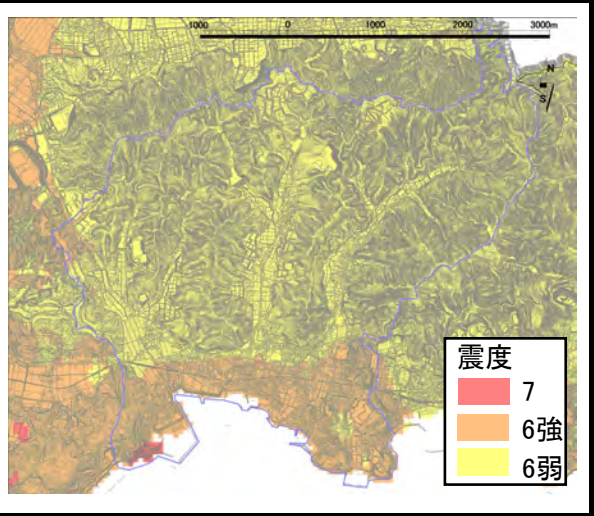
●避難環境評価 ※平成26年地震被害予測調査結果より

避難者数 ※津波による建物倒壊避難者も含む	2928 人
--------------------------	--------

●被害想定 ※平成26年地震被害予測調査結果より

建物全壊数	619 棟
建物半壊数	869 棟
死者数	114 人
重傷者数	53 人

●過去地震最大モデル震度分布図



●凡例

- 指定緊急避難場所・指定避難所 (地震時使用可)

福祉避難所

市役所・支所等

警察署等

消防署等

救急病院

水位観測所

雨量観測所
- 学校

幼稚園・保育園等

防災倉庫・防災資機材庫・その他備蓄倉庫等

水防倉庫

飲料水兼用耐震性貯水槽

防災活動拠点

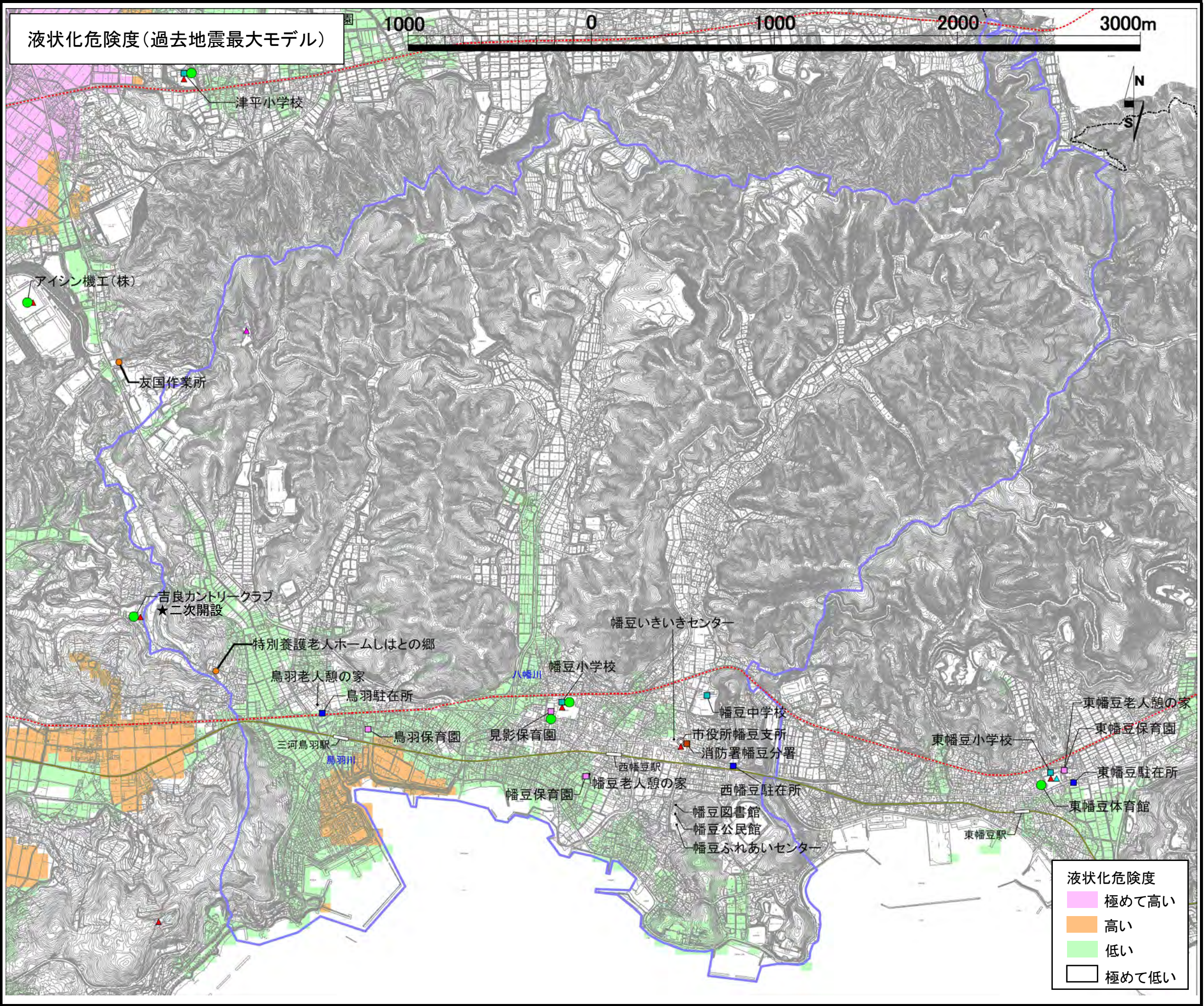
衛生施設

その他の施設
- 小学校区界

鉄道

市町村界

緊急輸送道路



西尾市地区別防災カルテ

④津波被害

地区No	25
地区名	幡豆小学校

●地区別津波被害の特性

南岸部の低地で最大浸水深が3m以上5m未満となる。
当地区の避難目標は、幡豆小学校と見影保育園である。
地区内には漁港が複数あり、津波により漁業への被害が発生するおそれがある。

●避難環境評価

津波一時待避所収容者数	0 人
避難所収容者数※1	1921 人
避難者数	6806 人
津波浸水想定区域外までの距離※2	約 - km

※1津波被害における避難所収容者数は「命を守った後に避難生活を送ること」を想定して算出している。

※2西尾市津波避難計画（令和5年4月修正）に記載された校区のみ記載している。

●津波浸水深

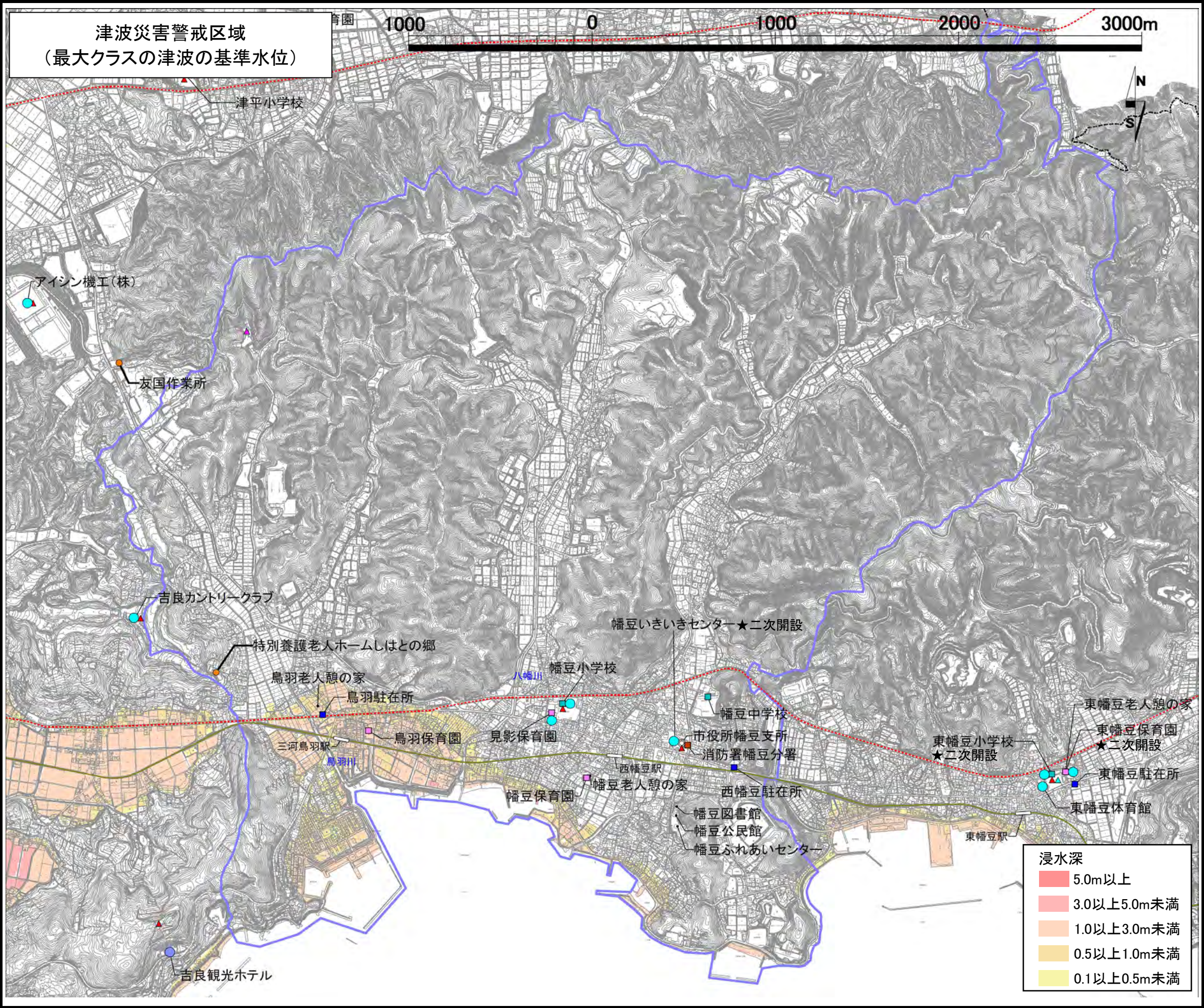
最大クラスの津波の基準水位	
最大津波水位	3m以上5m未満
過去地震最大モデル（参考）	
最大津波浸水深	3m以上4m未満

●津波発生時の避難先

避難目標：幡豆小学校、見影保育園

●凡例

指定緊急避難場所・指定避難所（津波時使用可）	学校
津波一時待避所	幼稚園・保育園等
福祉避難所	防災倉庫・防災資機材庫・その他備蓄倉庫等
市役所・支所等	水防倉庫
警察署等	飲料水兼用耐震性貯水槽
消防署等	防災活動拠点
救急病院	衛生施設
水位観測所	● その他の施設
雨量観測所	
小学校区界	市町村界
鉄道	緊急輸送道路



⑤高潮被害

地区No	25
地区名	幡豆小学校

南岸部の低地で主に0.5m以上3m未満の浸水が想定され、一部では浸水深が3m以上となる。指定避難所である幡豆小学校、幡豆いきいきセンターや地区内に1箇所ある福祉避難所は、いずれも浸水想定区域外に位置する。地区内には漁港が複数あり、高潮により漁業への被害が発生するおそれがある。

避難所収容者数	6851 人
避難者数	6806 人
最長避難距離	約 3.0 km

最大高潮浸水深	5m以上10m未満
---------	-----------

- 指定緊急避難場所・指定避難所
(高潮時使用可)
- 福祉避難所
- ◎ 市役所・支所等
- 警察署等
- 消防署等
- 救急病院
- ◆ 水位観測所
- ◆ 雨量観測所
- 学校
- 幼稚園・保育園等
- ▲ 防災倉庫・防災資機材庫・その他備蓄倉庫等
- ▲ 水防倉庫
- ▲ 飲料水兼用耐震性貯水槽
- ▲ 防災活動拠点
- ▲ 衛生施設
- その他の施設

—— 小学校区界
 - - - - 市町村界
— — 鉄道
 - - - - 緊急輸送道路

